

災害について考える
篠山中学校 一年 松本 和香那
私は、今までに大きな災害に遭ったことが
ありあせん。だから、学校での避難訓練以外
は、防災を考ええることはありません。「四国
防災十八話」では油断をしているときに災
害が起こり、慌てる状況が多く描かれていま
した。その中でも印象に残ったのが、「弟の
おかげ」という話です。「私」は地震が収ま
ってホッとする間もなく津波で逃げなくては
ならなくなります。しかし、避難時に慌てて
何を持っていったらいいのか分からなかった
そうです。その時、近所の人たちも同様に事
前に避難の準備ができていなかったそうです。
学校では想定された中での避難訓練なので冷
静に行動できます。でも、実際に災害が起こ
ったときに自分には正しく判断し、冷静に避
難することができるか自信がありません。では、
どうしたらよいのでしよう。私は、事前に荷

、

。

。

物を準備しておけばよいと思いましたが、その
でこの間、自分が大切だと思うものをバッグ
の中に入れてみました。出来上がった荷物は
とても重く、迅速な避難は望めそうもありません
せんでした。私はきつと災害から逃れられず
に命を落とすだろうと怖くなりました。それ
に、実際の災害時には、災害後の三日間を自
分たちでしのげる水や非常食品、貴重品、救
急薬品などが必要です。しかし、私が準備し
たものは、今の私に必要なCDや本が大半を
しめ、食料はほとんどありませんでした。災
害を体験した方の話から、「備えあれば憂い
なし」という事を強く感じます。

今回、地域のいろいろな方の災害体験を知
り、防災について深く考えることができまし
た。大地震が近い将来確実にやってくると言
われます。災害からは逃げることはできませ
ん。しかし、それまでの準備や迅速な避難が
私たちを助けます。私の大切な人たちを失わ
ないためにも、まずは家族と防災会議を開き

、

